

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-18111
(P2024-18111A)

(43)公開日 令和6年2月8日(2024.2.8)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 5/54 (2006.01)	B 6 5 D 5/54 3 0 1 Q	3 E 0 6 0
B 6 5 D 5/42 (2006.01)	B 6 5 D 5/54 3 0 1 J	
B 6 5 D 5/52 (2006.01)	B 6 5 D 5/42 C	
	B 6 5 D 5/52 L	

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全14頁)

(21)出願番号	特願2022-121214(P2022-121214)	(71)出願人	000003193
(22)出願日	令和4年7月29日(2022.7.29)		TOPPANホールディングス株式会社
			東京都台東区台東1丁目5番1号
		(74)代理人	100149548
			弁理士 松沼 泰史
		(74)代理人	100139686
			弁理士 鈴木 史朗
		(74)代理人	100169764
			弁理士 清水 雄一郎
		(74)代理人	100147267
			弁理士 大槻 真紀子
		(72)発明者	里見 杏彩
			東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内
		F ターム (参考)	3E060 AA03 AB05 BA03 BB01
			最終頁に続く

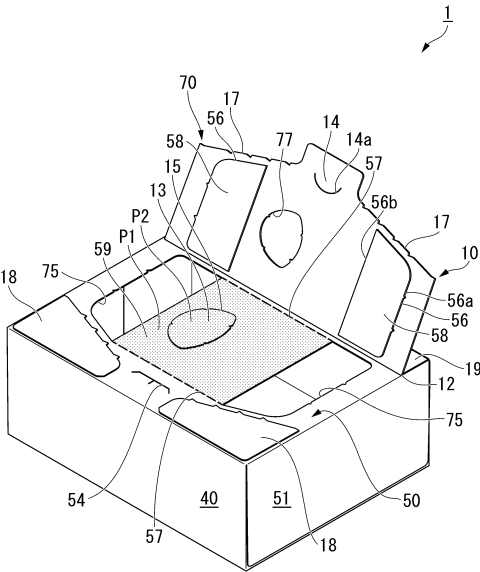
(54)【発明の名称】 カートン

(57)【要約】

【課題】意匠性を高めたトップオープン型のカートンを提供する。

【解決手段】ブランク板を製函して形成されたカートンであって、ブランク板は、上天面パネル、後面パネル、底面パネル、前面パネル、下天面パネル、および一對の側面パネルと、を備え、上天面パネルと下天面パネルとは、上天面パネルが下天面パネルの上側に位置するように互いに重ねられて、上天面パネルは、上面パネルの後面パネル側の端部に位置するヒンジ部と、ヒンジ部を回転軸として上側に開放する蓋部と、を有し、下天面パネルは、蓋部に接着される第1切除部と、第1切除部を囲む第1破断線と、第1破断線に繋がる第2破断線と、第1破断線の少なくとも一部、および第2破断線に囲まれる第2切除部と、を有する、カートン。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ブランク板を製函して形成されたカートンであって、
前記ブランク板は、上天面パネル、後面パネル、底面パネル、前面パネル、下天面パネル、および一对の側面パネルと、を備え、
前記上天面パネルと前記下天面パネルとは、前記上天面パネルが前記下天面パネルの上側に位置するように互いに重ねられ、
前記上天面パネルには、折れ線部を回転軸として上側に開く蓋部が設けられ、
前記下天面パネルには、
一つながりのループ状に形成される第 1 破断線と、
前記第 1 破断線に囲まれ前記蓋部に接着される第 1 切除部と、
前記第 1 破断線に繋がる第 2 破断線と、
前記第 1 破断線の少なくとも一部、および前記第 2 破断線に囲まれる第 2 切除部と、
が設けられる、
カートン。

10

【請求項 2】

前記第 2 切除部には、文字情報、図形、図柄、もしくは写真の少なくとも一つを含む印刷が施される、
請求項 1 に記載のカートン。

20

【請求項 3】

前記下天面パネルには、複数の前記第 1 切除部が設けられ、
前記第 2 切除部は、複数の前記第 1 切除部のうち、少なくとも 2 つの間に配置される、
請求項 1 に記載のカートン。

【請求項 4】

前記第 2 破断線の破断強度は、前記第 1 破断線の破断強度よりも大きい、
請求項 1 に記載のカートン。

【請求項 5】

前記第 1 破断線、および前記第 2 破断線は、
破断方向に沿って線状に延びる複数の切込部と、
前記切込部同士の上に位置する複数の連結部と、をそれぞれ有し、
前記第 2 破断線の前記連結部の長さの総和は、前記第 1 破断線の前記連結部の長さの総和よりも長い、
請求項 4 に記載のカートン。

30

【請求項 6】

前記第 1 破断線、および前記第 2 破断線は、
破断方向に沿って線状に延びる複数の切込部と、
前記切込部同士の上に位置する複数の連結部と、をそれぞれ有し、
前記第 2 破断線の前記切込部に対する前記連結部の比率は、前記第 1 破断線の前記切込部に対する前記連結部の比率よりも大きい、
請求項 4 に記載のカートン。

40

【請求項 7】

前記蓋部には、
一つながりのループ状に形成される第 3 破断線と、
前記第 3 破断線に囲まれ前記第 2 切除部に接着される第 3 切除部と、が設けられる、
請求項 1 に記載のカートン。

【請求項 8】

前記蓋部の前記第 2 切除部と重なる部分には、開口部が設けられる、
請求項 1 に記載のカートン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

50

【0001】

本発明は、カートンに関する。

【背景技術】

【0002】

紙製のブラנק板を製函することによって形成されるカートンの一種として、六面体の天面に開口部が形成されるとともに、開口部を封止するための蓋部が設けられた、いわゆるトップオープン型のカートンが知られている（例えば特許文献1参照）。このようなトップオープン型のカートンは、菓子などの物品を収納して販売するために好適に用いられている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2015-054710号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

トップオープン型のカートンをはじめとするさまざまなカートンにおいて、さらに意匠性を高めた構造が求められている。

【0005】

本発明は、意匠性を高めたカートンを提供することを目的の一つとする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の一態様のカートンは、ブラנק板を製函して形成されたカートンであって、前記ブラנק板は、上天面パネル、後面パネル、底面パネル、前面パネル、下天面パネル、および一对の側面パネルと、を備え、前記上天面パネルと前記下天面パネルとは、前記上天面パネルが前記下天面パネルの上側に位置するように互いに重ねられ、前記上天面パネルには、折れ線部を回転軸として上側に開く蓋部が設けられ、前記下天面パネルには、一つながりのループ状に形成される第1破断線と、前記第1破断線に囲まれ前記蓋部に接着される第1切除部と、前記第1破断線に繋がる第2破断線と、前記第1破断線の少なくとも一部、および前記第2破断線に囲まれる第2切除部と、が設けられる。

【0007】

上述のカートンにおいて、前記第2切除部には、文字情報、図形、図柄、もしくは写真の少なくとも一つを含む印刷が施される構成としてもよい。

【0008】

上述のカートンにおいて、前記下天面パネルには、複数の前記第1切除部が設けられ、前記第2切除部は、複数の前記第1切除部のうち、少なくとも2つの間に配置される構成としてもよい。

【0009】

上述のカートンにおいて、前記第2破断線の破断強度は、前記第1破断線の破断強度よりも大きい構成としてもよい。

【0010】

上述のカートンにおいて、前記第1破断線、および前記第2破断線は、破断方向に沿って線状に延びる複数の切込部と、前記切込部同士の間位置する複数の連結部と、をそれぞれ有し、前記第2破断線の前記連結部の長さの総和は、前記第1破断線の前記連結部の長さの総和よりも長い構成としてもよい。

【0011】

上述のカートンにおいて、前記第1破断線、および前記第2破断線は、破断方向に沿って線状に延びる複数の切込部と、前記切込部同士の間位置する複数の連結部と、をそれぞれ有し、前記第2破断線の前記切込部に対する前記連結部の比率は、前記第1破断線の前記切込部に対する前記連結部の比率よりも大きい構成としてもよい。

【0012】

上述のカートンにおいて、前記蓋部には、一つながりのループ状に形成される第3破断線と、前記第3破断線に囲まれ前記第2切除部に接着される第3切除部と、が設けられる構成としてもよい。

【0013】

上述のカートンにおいて、前記蓋部の前記第2切除部と重なる部分には、開口部が設けられる構成としてもよい。

【発明の効果】

【0014】

本発明によれば、意匠性を高めたカートンを提供できる。

10

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】図1は、一実施形態のカートンの斜視図であり、蓋部を閉塞した状態を示す。

【図2】図2は、一実施形態のカートンの斜視図であり、蓋部を開いた状態を示す。

【図3】図3は、一実施形態のカートンの斜視図であり、蓋部を開き第2切除部を切除した状態を示す。

【図4】図4は、一実施形態のカートンを展開したブランク板2の平面図である。

【図5】図5は、変形例のカートンの斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0016】

20

以下、図面を参照して、本実施形態のカートン1について説明する。なお、以下の説明において用いる上下方向は、カートン1の蓋部70を開く際の姿勢の一例であり、カートン1の姿勢を本明細書中の上下方向の記載に限定するものではない。

【0017】

図1～図3は、本実施形態のカートン1の斜視図であり、図1は蓋部70を閉塞した状態を示し、図2は蓋部70を開いた状態を示し、図3はさらに第2切除部59を切除した状態を示す。図4は、カートン1を展開したブランク板2の平面図であり、ブランク板2をその外面側から見た状態を示す。なおブランク板2の外面とは、ブランク板2を製函してカートン1を形成した際に外側に位置する面のことである。反対に、ブランク板2の内面とは、外面の反対側に位置する面のことである。ブランク板2の材料としては、保形性を有する厚紙やプラスチックシートなどが用いられ得る。

30

【0018】

本実施形態のカートン1は、図4に示すブランク板2を製函して形成される。

図4に示すように、ブランク板2は、上天面パネル10と、後面パネル20と、底面パネル30と、前面パネル40と、下天面パネル50と、一对の第1側面パネル31と、一对の第2側面パネル（側面パネル）51と、一对の第1フラップ21と、一对の第2フラップ41と、を有する。

【0019】

上天面パネル10、後面パネル20、底面パネル30、前面パネル40および下天面パネル50は、一方の端部（第1端部）3から他方の端部（第2端部）4へ向かって一方向に順に接続される。以下、ブランク板2の説明において、後面パネル20、底面パネル30、前面パネル40および下天面パネル50が接続される方向を第1方向D1と呼び、第1方向D1と直交する方向を第2方向D2と呼ぶ。

40

【0020】

上天面パネル10と後面パネル20とは、罫線16によって画定される。後面パネル20と底面パネル30とは、罫線26によって画定される。底面パネル30と前面パネル40とは、罫線36によって画定される。前面パネル40と下天面パネル50とは罫線46によって画定される。罫線16、26、36、46は、第2方向D2に延びる。

【0021】

一对の第1側面パネル31は、罫線35を介して底面パネル30の第2方向D2の両側

50

に接続される。一对の第2側面パネル51は、罫線55を介して下天面パネル50の第2方向D2の両側に接続される。一对の第1フラップ21は、罫線25を介して後面パネル20の第2方向D2の両側に接続される。一对の第2フラップ41は、罫線45を介して前面パネル40の第2方向D2の両側に接続される。罫線25, 35, 45, 55は、第1方向D1に延びる。

【0022】

罫線16, 25, 26, 35, 36, 45, 46, 55は、ブランク板2を製函してカートン1を作製する際に折れ線として機能する。本実施形態において、罫線を境界とする一对のパネル同士は、罫線を折線として、カートン1の内面側に折り込まれる。

【0023】

上天面パネル10と下天面パネル50とは、製函時に互いに重ね合わされてカートン1の天面を構成する。上天面パネル10、および下天面パネル50は、カートン1の内部空間を上側から覆う。製函されたカートン1において、上天面パネル10は、下天面パネル50の上側（外面側）に位置する。上天面パネル10と下天面パネル50とは、接着剤によって部分的に接着される。上天面パネル10および下天面パネル50の構成については、後段において詳細に説明する。

【0024】

図4に示すように、第1側面パネル31と第2側面パネル51とは、製函時に互いに重ね合わされてカートン1の側面を構成する。第1側面パネル31、および第2側面パネル51は、カートン1の内部空間を側方から覆う。第2側面パネル51は、第1側面パネル31の外面側に位置する。なお、第1側面パネル31と第2側面パネル51とは、重ね合わせる順序が逆であってもよい。第1側面パネル31と第2側面パネル51とは、接着剤によって互いに接着される。

【0025】

底面パネル30は、カートン1の底面を構成する。底面パネル30は、カートン1の内部空間を下側から覆う。前面パネル40は、カートン1の前面を構成する。前面パネル40は、カートン1の内部空間を前側から覆う。後面パネル20は、カートン1の後面を構成する。後面パネル20は、カートン1の内部空間を後ろ側から覆う。

【0026】

第1フラップ21、および第2フラップ41は、カートン1の側面を補強する。第1フラップ21、および第2フラップ41は、カートン1の六面体形状を安定させる。第1フラップ21は、第1側面パネル31の後方側の領域に接着される。同様に、第2フラップ41は、第1側面パネル31の前方側の領域に接着される。

【0027】

次に、ブランク板2のうち、下天面パネル50、および上天面パネル10について、より具体的に説明する。図1、および図2に示すように、上天面パネル10の一部は、蓋部70を構成する。

【0028】

<下天面パネル>

下天面パネル50は、矩形状である。下天面パネル50には、第1破断線56と第2破断線57と、係止用スリット54と、が設けられる。

【0029】

なお、本明細書において、「破断線」とは、直線状又は曲線状に延びる線であって、パネル内を2つの領域に画定する。破断線が設けられるパネルは、破断線に沿って2つの領域に破断される。破断線は、例えば、ミシン目である。本明細書において、破断線が延びる方向を破断方向と呼ぶ。

【0030】

ここで、各パネルに設けられる破断線を代表して、第1破断線56および第2破断線57についてより具体的に説明する。本実施形態において、第1破断線56は、破断方向に沿って交互に並ぶ複数の切込部56pと複数の連結部56qとを有する。同様に、第2破

10

20

30

40

50

断線 5 7 は、破断方向に沿って交互に並ぶ複数の切込部 5 7 p と複数の連結部 5 7 q とを有する。

【0031】

切込部 5 6 p、5 7 p は、破断線 5 6、5 7 が画定するパネル内の 2 つの領域の間に切刃を入れることで形成されている。したがって、破断線 5 6、5 7 によって画定される 2 つの領域は、切込部 5 6 p、5 7 p において予め分断されている。切込部 5 6 p、5 7 p は、破断方向に沿って線状に延びる。

【0032】

一方で、連結部 5 6 q、5 7 q は、切込部 5 6 p、5 7 p 同士の上に位置する。連結部 5 6 q、5 7 q は、破断線 5 6、5 7 が画定する 2 つの領域を繋ぐ。連結部 5 6 q、5 7 q は、破断線 5 6、5 7 に沿ってパネル内の 2 つの領域が破断する際に切断される。

10

【0033】

第 1 破断線 5 6 は、一つながりのループ状に形成される。本実施形態の第 1 破断線 5 6 には、それぞれループを形成する 2 つの一連の第 1 破断線 5 6 が設けられる。ここで、第 1 破断線 5 6 に囲まれる領域を、第 1 切除部 5 8 と呼ぶ。第 1 切除部 5 8 は、上天面パネル 10 に接着される。第 1 切除部 5 8 は、第 1 破断線 5 6 で下天面パネル 50 が破断することで、下天面パネル 50 の他の部位から離脱する。本実施形態の下天面パネル 50 には、2 つの第 1 切除部 5 8 に設けられる。

【0034】

第 1 破断線 5 6 は、第 1 部分 5 6 a と第 2 部分 5 6 b とを有する。第 1 部分 5 6 a の一端と第 2 部分 5 6 b の一端とは互いに繋がり、第 1 部分 5 6 a の他端と第 2 部分 5 6 b の他端とは互いに繋がる。これにより、第 1 部分 5 6 a と第 2 部分 5 6 b とは、1 つのループを構成する。第 2 部分 5 6 b は、第 1 方向 D1 に沿って直線状に延びる。一方で、第 1 部分 5 6 a は、第 2 部分 5 6 b の一端と他端との間で第 2 方向 D2 に迂回して延びる。なお、本実施形態の第 1 破断線 5 6 は、直線状に延びる部分が複数組み合わせられて構成されているが、第 1 破断線 5 6 は、さらに曲線状や途中に屈曲点を含んでいてもよい。

20

【0035】

第 2 破断線 5 7 は、第 2 方向 D2 に沿って直線状に延びる。本実施形態の下天面パネル 50 には、2 つの第 2 破断線 5 7 が設けられる。2 つの第 2 破断線 5 7 の一方は、2 つの第 1 破断線 5 6 の第 1 部分 5 6 a の一端同士を繋ぐ。一方で、2 つの第 2 破断線 5 7 の他方は、2 つの第 1 破断線 5 6 の第 1 部分 5 6 a の他端同士を繋ぐ。すなわち、第 2 破断線 5 7 は、2 つの第 1 破断線 5 6 の間を延びてこれら 2 つの第 1 破断線 5 6 に繋がる。なお、本実施形態の第 2 破断線 5 7 は、直線状に延びるが、曲線状や途中に屈曲点を含んでいてもよい。

30

【0036】

2 つの第 2 破断線 5 7 は、2 つの第 1 破断線 5 6 の第 1 部分 5 6 a とともに矩形の領域を囲む。ここで、2 つの第 2 破断線 5 7 と、2 つの第 1 破断線 5 6 の第 1 部分 5 6 a と、に囲まれる領域を第 2 切除部 5 9 と呼ぶ。第 2 切除部 5 9 は、第 1 破断線 5 6 の少なくとも一部、および第 2 破断線 5 7 に囲まれる。第 2 切除部 5 9 は、第 1 破断線 5 6、および第 2 破断線 5 7 で下天面パネル 50 が破断することで、下天面パネル 50 の他の部位から離脱する。

40

【0037】

係止用スリット 54 は、主に第 2 方向 D2 に沿って延びる。係止用スリット 54 は、下天面パネル 50 の第 2 方向 D2 の中央に配置される。下天面パネル 50 は、第 2 切除部 59 の前方側に配置される。なお、本実施形態の係止スリット 54 の構成は一例であり、係止スリット 54 は、第 2 方向 D2 の一方側又は他方側に偏って配置されていてもよい。

【0038】

下天面パネル 50 には、第 1 接着領域 81、第 2 接着領域 82、第 3 接着領域 83、および第 4 接着領域 84 が設けられる。第 1 接着領域 81、第 2 接着領域 82、第 3 接着領域 83、および第 4 接着領域 84 は、接着剤、又は両面テープが配置される領域である。

50

本実施形態の第1接着領域81、第2接着領域82、第3接着領域83、および第4接着領域84は、第2方向D2に沿って帯状に延びる領域である。第1接着領域81、第2接着領域82、第3接着領域83、および第4接着領域84の配置など、具体的な構成については、後段において詳細に説明する。

【0039】

なお、図4では、下天面パネル50に設けられる接着領域のみが図示されているが、実際には、第1側面パネル31または第2側面パネル51にも、図示略の接着領域が設けられる。

【0040】

＜上天面パネル＞

上天面パネル10は、矩形状である。上天面パネル10の外形は、下天面パネル50の外形と略一致する。上天面パネル10は、下天面パネル50に上側から重なり、第1接着領域81、第2接着領域82、第3接着領域83において下天面パネル50に接着される。なお、上天面パネル10と下天面パネル50の外形は、必ずしも一致していなくてもよい。例えば、上天面パネルの外形が下天板パネルの外形よりも内側に配置されることで下天面パネルの一部が露出する構造であってもよい。

【0041】

上天面パネル10には、折れ線部12と、第3破断線15と、一对の第4破断線17と、切り込み14aと、が設けられる。

【0042】

折れ線部12は、第2方向D2に沿って直線状に延びる。折れ線部12は、上天面パネル10の第2方向の全長に亘って設けられる。折れ線部12は、上天面パネル10の後方の端部に位置する。折れ線部12は、上天面パネル10を蓋部70と基端片19とに画定する。すなわち、上天面パネル10には、折れ線部12によって画定される基端片19、および蓋部70が設けられる。基端片19は、折れ線部12と野線16との間に配置される。基端片19は、第2方向D2に沿っての帯状に延びる。

【0043】

図2に示すように、折れ線部12は、回転軸として機能する。蓋部70と基端片19とは、折れ線部12を回転軸として相対的に回転する。基端片19は、下天面パネル50に接着固定されている。蓋部70は、折れ線部12を回転軸として上側に開く。

【0044】

図4に示すように、一对の第4破断線17は、上天面パネル10の前方側の端部から側方向に向かって傾斜して延びる。第4破断線17は、上天面パネル10の前方および側方の角部に、略三角形の先端片18を画定する。すなわち、上天面パネル10には、一对の第4破断線17によってそれぞれ画定される一对の先端片18が設けられる。先端片18は、下天面パネル50に接着固定されており、蓋部70が開いても下天面パネル50に重なった状態を維持する。

【0045】

切り込み14aは、一对の先端片18の間に配置される。切り込み14aは、後方側に向かって凸形状の円弧状に延びるスリットである。上天面パネル10には、切り込み14aよりも前方側に位置する把持片14が設けられる。

【0046】

把持片14は、蓋部70の先端部であって一对の先端片18の間に位置する。蓋部70を閉塞する状態において、把持片14は、下天面パネル50の係止用スリット54に重なる。把持片14の一部は、係止用スリット54に差し込み可能である。把持片14の一部が係止用スリット54に差し込まれることで、蓋部70は、下天面パネル50に係止される。

【0047】

第3破断線15は、一つながりのループ状に形成される。上天面パネル10において、第3破断線15に囲まれる領域を、第3切除部13と呼ぶ。第3切除部13は、下天面パ

10

20

30

40

50

ネル 50 に接着される。第 3 切除部 13 は、第 3 破断線 15 で上天面パネル 10 が破断することで、上天面パネル 10 の他の部位から離脱する。

【0048】

＜接着領域＞

第 1 接着領域 81、第 2 接着領域 82、第 3 接着領域 83、および第 4 接着領域 84 は、下天面パネル 50 のうち、上天面パネル 10 と対向する面に設けられる。第 1 接着領域 81、第 2 接着領域 82、第 3 接着領域 83、および第 4 接着領域 84 に設けられる接着剤は、下天面パネル 50 と、上天面パネル 10 とを互いに接着する。

【0049】

なお、第 1 接着領域 81、第 2 接着領域 82、第 3 接着領域 83、および第 4 接着領域 84 は、上天面パネル 10 の下天面パネル 50 と対向する面に設けられていてもよい。すなわち、第 1 接着領域 81、第 2 接着領域 82、第 3 接着領域 83、および第 4 接着領域 84 は、上天面パネル 10、および下天面パネル 50 の一方の面に設けられ、上天面パネル 10 と下天面パネル 50 とを相互に接着するものであればよい。

【0050】

第 1 接着領域 81 は、第 1 切除部 58 に配置される。下天面パネル 50 と上天面パネル 10 とを重ねた状態で、第 1 接着領域 81 は、蓋部 70 に重なる。第 1 接着領域 81 は、第 1 切除部 58 を蓋部 70 に接着する。本実施形態において、1 つの第 1 切除部 58 には、2 箇所の第 1 接着領域 81 が設けられる。上述したように、下天面パネル 50 には、2 つの第 1 切除部 58 が設けられるため、本実施形態の下天面パネル 50 には、4 箇所の第 1 接着領域 81 が設けられる。

【0051】

第 2 接着領域 82 は、第 2 切除部 59 に配置される。下天面パネル 50 と上天面パネル 10 とを重ねた状態で、第 2 接着領域 82 は、第 3 切除部 13 に重なる。第 2 接着領域 82 は、第 2 切除部 59 と第 3 切除部 13 とを接着する。

【0052】

第 3 接着領域 83 は、下天面パネル 50 において後方側の端部に配置される。第 3 接着領域 83 は、下天面パネル 50 において後方側の端部に沿って第 2 方向 D2 に延びる。下天面パネル 50 と上天面パネル 10 とを重ねた状態で、第 3 接着領域 83 は、基端片 19 に重なる。第 3 接着領域 83 は、下天面パネル 50 と基端片 19 とを接着する。

【0053】

第 4 接着領域 84 は、下天面パネル 50 において前方側の端部に配置される。また、第 4 接着領域 84 は、下天面パネル 50 の第 2 方向 D2 の両端部にそれぞれ設けられる。下天面パネル 50 と上天面パネル 10 とを重ねた状態で、第 2 方向 D2 の両端部の第 4 接着領域 84 は、それぞれ異なる先端片 18 に重なる。第 4 接着領域 84 は、下天面パネル 50 と先端片 18 とを接着する。

【0054】

＜蓋部の開放＞

次いで蓋部の開閉について説明する。

図 1 に示すカートン 1 の内部には、予め菓子などの物品が充填されている。図 2 に示すように、蓋部 70 を上側に持ち上げることで蓋部 70 は開放される。消費者は、蓋部 70 の把持片 14 を把持するなどして蓋部 70 を上側に持ち上げる操作を行う。

【0055】

蓋部 70 が、上側に持ち上げられると、上天面パネル 10 に設けられる一対の第 4 破断線 17 に沿って上天面パネル 10 が破断する。これにより、上天面パネル 10 は、蓋部 70 と一対の先端片 18 とに分離される。上述したように、先端片 18 は、下天面パネル 50 に接着固定されている。このため、先端片 18 は、蓋部 70 の上側への操作に追従することができず、下天面パネル 50 に残留する。

【0056】

さらに、蓋部 70 が上側に持ち上げられると、上天面パネル 10 に設けられる一対の第

1 破断線 5 6 が破断し、第 1 破断線 5 6 に囲まれる一対の第 1 切除部 5 8 が下天面パネル 5 0 から切除される。第 1 切除部 5 8 は、蓋部 7 0 に接着固定されている。このため、第 1 切除部 5 8 は、蓋部 7 0 の上側への操作に追従し蓋部 7 0 とともに上側に移動して下天面パネル 5 0 から離脱する。

【0057】

一対の第 1 切除部 5 8 の下天面パネル 5 0 からの離脱によって、下天面パネル 5 0 には、一対の第 1 開口部 7 5 が形成される。第 1 開口部 7 5 は、下天面パネル 5 0 において第 1 切除部 5 8 が除去された部分である。また一対の第 1 開口部 7 5 の間には、第 2 切除部 5 9 が残留した状態となる。

【0058】

また、蓋部 7 0 が上側に持ち上げられると、蓋部 7 0 に設けられる第 3 破断線 1 5 が破断し第 3 破断線 1 5 に囲まれる第 3 切除部 1 3 が蓋部 7 0 から切除される。第 3 切除部 1 3 は、第 2 切除部 5 9 に接着固定されている。第 3 切除部 1 3 は、蓋部 7 0 の上側への操作に追従できず、下天面パネル 5 0 の第 2 切除部 5 9 上に残留する。これにより、蓋部 7 0 には、第 3 開口部 7 7 が形成される。第 3 開口部 7 7 は、蓋部 7 0 において第 3 切除部 1 3 が除去された部分である。

【0059】

図 2 に示すように、蓋部 7 0 を開放した状態で、一対の第 1 開口部 7 5 の間には、第 2 切除部 5 9 が配置される。図 3 に示すように、第 2 切除部 5 9 は、第 1 破断線 5 6 に沿って下天面パネル 5 0 を破断することで、下天面パネル 5 0 側から切除可能である。第 2 切除部 5 9 の切除は、例えば、一対の第 1 開口部 7 5 の両方、又は何れか一方に指を挿入し第 2 切除部 5 9 を把持して上側に持ち上げることで行われる。第 2 切除部 5 9 が下天面パネル 5 0 から除去されることで、下天面パネル 5 0 には第 2 開口部 7 6 が形成される。第 2 開口部 7 6 は、一対の第 1 開口部 7 5 同士を繋ぐように形成される。第 2 開口部 7 6 は、下天面パネル 5 0 において、一対の第 1 切除部 5 8 とその間に配置される第 2 切除部 5 9 とが除去された部分である。

【0060】

本実施形態において、第 1 開口部 7 5 の開口面積は、カートン 1 の内部に充填される物品に対して十分小さい。一方で、第 2 開口部 7 6 の開口面積は、カートン 1 の内部に充填される物品に対して十分大きい。消費者は、蓋部 7 0 を開放した後に、さらに第 2 切除部 5 9 を除去することで、物品をカートン 1 から取り出すことができる。

【0061】

本実施形態によれば、下天面パネル 5 0 には、一つながりのループ状に形成される第 1 破断線 5 6 と、第 1 破断線 5 6 に囲まれ蓋部 7 0 に接着される第 1 切除部 5 8 と、第 1 破断線 5 6 に繋がる第 2 破断線 5 7 と、第 1 破断線 5 6 の少なくとも一部、および第 2 破断線 5 7 に囲まれる第 2 切除部 5 9 と、が設けられる。

【0062】

本実施形態によれば、蓋部 7 0 を開放することで第 1 切除部 5 8 を下天面パネル 5 0 から除去し第 1 開口部 7 5 を形成するとともに第 1 開口部 7 5 に連なる位置に第 2 切除部 5 9 を残留させることができる。さらに、第 2 切除部 5 9 を第 2 破断線 5 7 に沿って切除することで、第 1 開口部 7 5 を広げた第 2 開口部 7 6 を形成させることができる。このため、消費者は、カートン 1 から物品を取り出す際に第 2 切除部 5 9 に触れる必要があり、消費者に第 2 切除部 5 9 に着目させることができる。本実施形態によれば、第 2 切除部 5 9 に絵柄などの印刷 P 1 を設けることで、意匠性の高いカートン 1 を提供できる。また、第 2 切除部 5 9 を娯楽用のカードとして用いることができるなど、商品にさらなる付加価値を与えることができる。加えて、第 2 切除部 5 9 にカートン 1 内の物品の消費時の注意書き等を印刷する場合には、消費者に対し確実な注意喚起を行うことができる。

【0063】

また、本実施形態によれば、蓋部 7 0 を開放しても、第 2 切除部 5 9 が下天面パネル 5 0 側に残留して第 2 開口部 7 6 の一部を塞ぐ、このため、蓋部 7 0 の開放時にカートン 1

10

20

30

40

50

全体が大きく揺れてもカートン 1 の内部の物品が第 2 開口部 7 6 から飛散してしまうことを抑制できる。

【0064】

本実施形態において、第 2 切除部 5 9 には、印刷 P 1 が施される。印刷 P 1 は、文字情報、図形、図柄、もしくは写真の少なくとも一つを含む。消費者は、カートン 1 から物品を取り出すための第 2 開口部 7 6 を設けるために、第 2 切除部 5 9 を除去する。このため、第 2 切除部 5 9 の印刷 P 1 は、消費者に視認されやすい。第 2 切除部 5 9 に文字情報、図形、図柄、もしくは写真などの印刷 P 1 が施されることで、消費者に当該印刷 P 1 に係る情報を確実に提供できる。なお、図 1 ～図 3、および図 5 において、印刷 P 1、P 2 をドット模様で表現する。

10

【0065】

本実施形態において、下天面パネル 5 0 には、複数の第 1 切除部 5 8 が設けられ、第 2 切除部 5 9 は、複数の第 1 切除部 5 8 のうち、少なくとも 2 つの間に配置される。上述したように、第 1 切除部 5 8 は、蓋部 7 0 の開放とともに下天面パネル 5 0 から離脱して第 1 開口部 7 5 を形成する。このため、第 2 切除部 5 9 は、少なくとも 2 つの第 1 開口部 7 5 の間に配置される。本実施形態によれば、消費者は、2 つの第 1 開口部 7 5 から指をいれて第 2 切除部 5 9 を除去することができるため、第 2 切除部 5 9 を切除する手順が簡素化できる。

【0066】

本実施形態において、第 2 破断線 5 7 の破断強度は、第 1 破断線 5 6 の破断強度よりも大きいことが好ましい。ここで、「破断線の破断強度」とは、破断線においてパネルを破断させる際に要する力を意味する。本実施形態によれば、蓋部 7 0 を持ち上げる際に、第 2 破断線 5 7 よりも第 1 破断線 5 6 を優先的に破断させることができる。これにより、蓋部 7 0 を持ち上げる際に、第 1 切除部 5 8 を蓋部 7 0 に追従させるとともに、第 2 切除部 5 9 を第 1 切除部 5 8 から引き離して下天面パネル 5 0 側に残留させることができる。

20

【0067】

本実施形態において、第 2 破断線 5 7 の連結部 5 7 q の長さの総和は、第 1 破断線 5 6 の連結部 5 6 q の長さの総和よりも長いことが好ましい。このような構成を採用する場合に、第 2 破断線 5 7 の破断強度を、第 1 破断線 5 6 の破断強度よりも大きくすることができる。なお、「破断線の連結部の長さの総和」とは、当該破断線の全長において、全ての連結部の破断方向に沿う長さ寸法の総和である。

30

【0068】

また、本実施形態において、第 2 破断線 5 7 の切込部 5 7 p に対する連結部 5 7 q の比率は、第 1 破断線 5 6 の切込部 5 6 p に対する連結部 5 6 q の比率よりも大きいことが好ましい。このような構成を採用する場合に、第 2 破断線 5 7 の破断強度を、第 1 破断線 5 6 の破断強度よりも大きくすることができる。なお、「破断線の切込部に対する連結部の比率」とは、破断方向に隣り合う切込部と連結部との破断方向に沿う長さ寸法の比率を意味する。第 1 破断線 5 6、および第 2 破断線 5 7 の切込部 5 6 p、5 7 p、および連結部 5 6 q、5 7 q の破断方向に沿う長さ寸法は、必ずしも一定ではない。このため、「破断線の切込部に対する連結部の比率」も必ずしも一定ではない。本実施形態において、全ての第 2 破断線 5 7 の上述の比率が、第 1 破断線 5 6 の上述の比率よりも大きければよい。すなわち、第 2 破断線 5 7 の切込部 5 7 p に対する連結部 5 7 q の比率の最小値が、第 1 破断線 5 6 の切込部 5 6 p に対する連結部 5 6 q の比率の最大値よりも大きければよい。

40

【0069】

なお、本実施形態の第 1 破断線 5 6 において、第 2 部分 5 6 b は、連結部 5 6 q を有していない完全な切れ込みであってもよい。しかしながら、第 2 部分 5 6 b に連結部 5 6 q を設けることで、接着領域に接着剤を設ける工程などで、第 1 切除部 5 8 の下天面パネル 5 0 における浮き上がりを抑制でき、接着材を設ける工程を円滑に進めることができる。すなわち、本実施形態によれば、第 2 部分 5 6 b に連結部 5 6 q を設けることで製函工程を簡素化できる。

50

【0070】

本実施形態によれば、蓋部70には、一つながりのループ状に形成される第3破断線15と、第3破断線15に囲まれ第2切除部59に接着される第3切除部13と、が設けられる。本実施形態によれば、蓋部70を上側に持ち上げることで、第3切除部13が下天面パネル50に残り蓋部70から切除される。これにより、蓋部70に第3開口部77を設けることができ、第2切除部59を除去した後に蓋部70を閉塞すると、第3開口部77からカートン1の内部を露出させることができる。さらに、本実施形態によれば、第2切除部59に第3切除部13が貼り付けられる。このため、第2切除部59の表面に立体的な意匠を施すことができる。

【0071】

なお、本実施形態の第3開口部77の開口面積は、カートン1の内部に充填される物品に対して十分小さい。このため、蓋部70を閉塞した状態で、第3開口部77を通してカートン1内の物品がカートン1から脱落することを抑制できる。

【0072】

なお、第3切除部13の表面に設けられる印刷P2は、第2切除部59の表面に設けられる印刷P1と連続的な形態（例えば絵柄）とすることが好ましい。この場合には、第2切除部59の印刷P1に対し、第3切除部13の印刷P2を強調して表現することができる。加えて、第3切除部13の印刷P2は、蓋部70の外面側の印刷とも連続的な形態であることがより好ましい。この場合、蓋部70の開閉に伴い、第3切除部13の印刷P2の周囲の形態が変化する意匠を実現できる。

【0073】

本実施形態において、第2破断線57の破断強度は、第3破断線15の破断強度よりも大きいことが好ましい。本実施形態によれば、蓋部70を持ち上げる際に、第2破断線57よりも第3破断線15を優先的に破断させることができる。これにより、蓋部70を持ち上げる際に、第3切除部13を蓋部70から切除し第3切除部13を第2切除部59とともに下天面パネル50側に残留させることができる。第2破断線57の破断強度を、第3破断線15の破断強度よりも大きくするために、第2破断線57の連結部57qの長さの総和を、第3破断線15の連結部15qの長さの総和よりも長くすることができる。また、第2破断線57の切込部57pに対する連結部57qの比率を、第3破断線15の切込部15pに対する連結部15qの比率よりも大きくしてもよい。

【0074】

<変形例>

図5は、上述の実施形態に採用可能な変形例の蓋部170を有するカートン101の斜視図である。本変形の蓋部170の第2切除部59と重なる部分には、開口部177が設けられる。開口部177は、上天面パネル110に予め設けられる。開口部177が設けられることで、第2切除部59の切除前において、蓋部170を閉塞する場合に、開口部177から第2切除部59の一部を露出させ、第2切除部59の印刷P1を外側から視認させることができる。さらに第2切除部59の切除後においては、蓋部170を閉塞する場合に、開口部177からカートン101の内部を露出させることができる。

【0075】

以上に、本発明の実施形態およびその変形例を説明したが、実施形態および変形例における各構成およびそれらの組み合わせ等は一例であり、本発明の趣旨から逸脱しない範囲内で、構成の付加、省略、置換およびその他の変更が可能である。また、本発明は実施形態によって限定されることはない。

【符号の説明】

【0076】

1, 101…カートン、2…ブランク板、10, 110…上天面パネル、12…折れ線部、13…第3切除部、15…第3破断線、15p, 56p, 57p…切込部、15q, 56q, 57q…連結部、20…後面パネル、30…底面パネル、40…前面パネル、50…下天面パネル、51…第2側面パネル（側面パネル）、56…第1破断線、57…第2

10

20

30

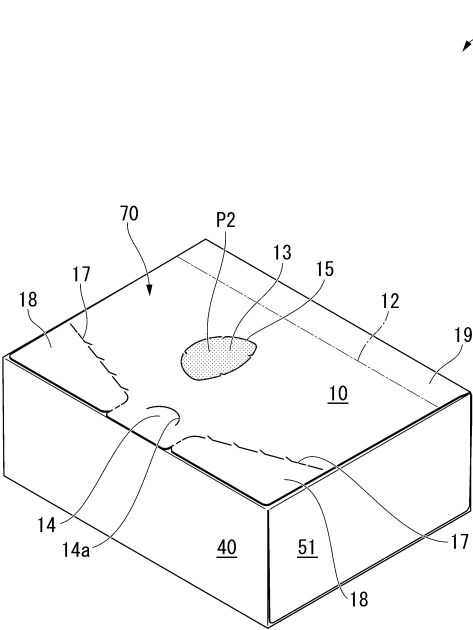
40

50

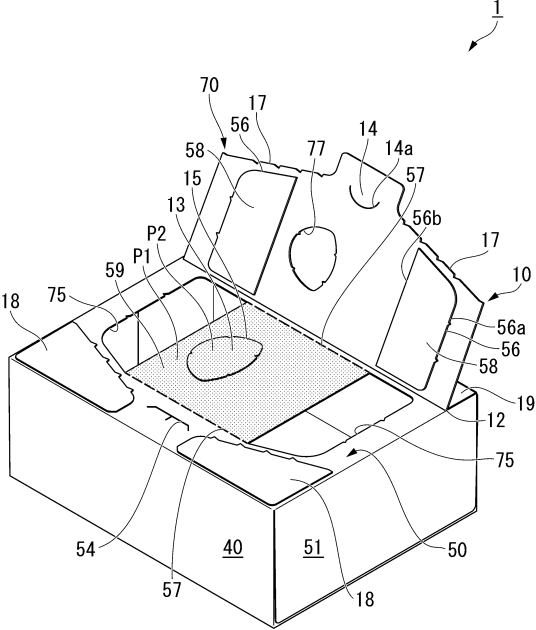
破断線、58…第1切除部、59…第2切除部、70，170…蓋部、177…開口部、
P1，P2…印刷

【図面】

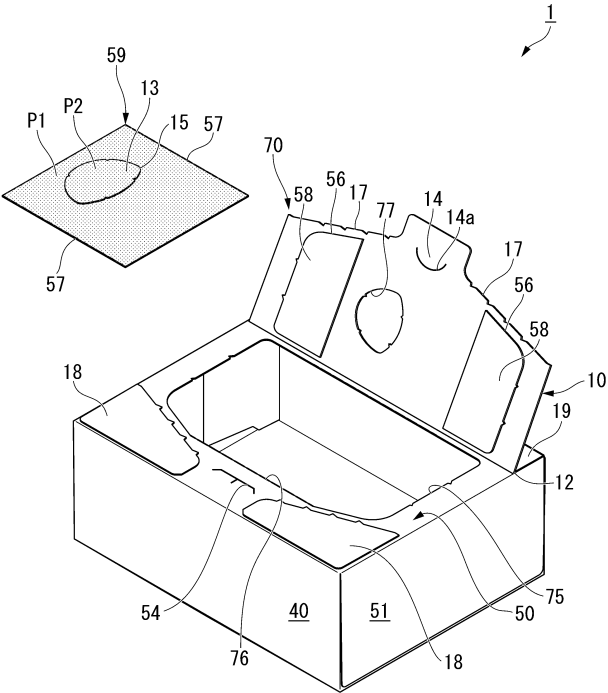
【図1】



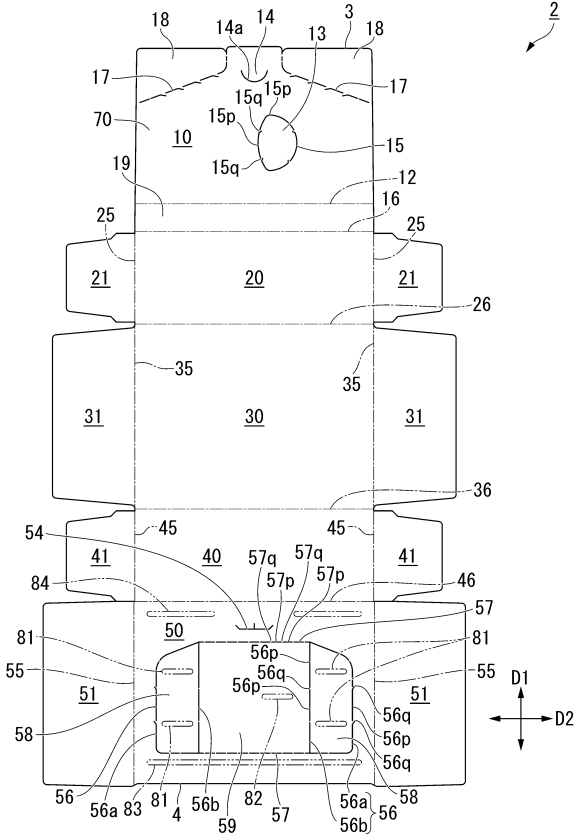
【図2】



【図3】



【図4】



10

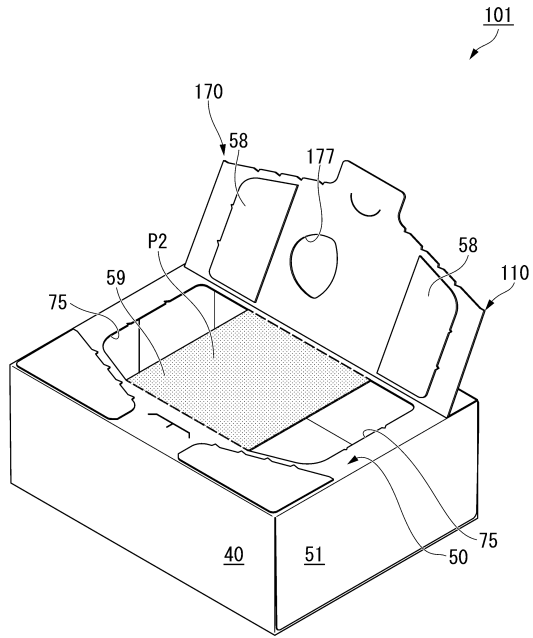
20

30

40

50

【図 5】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

F ターム (参考) BC04 CB06 CB16 CE04 CE05 CE07 CE12 CE15 CE18 CE19
CE22 CE30 CF05 CG12 DA04 EA06